

## 臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本研究について	<p>本研究は、静岡県国民健康保険団体連合会が市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者の方の特定健診受診結果、医療レセプト、介護保険審査データを突合して、匿名化处理をした上で静岡県立総合病院に提供した資料を用いて行います。</p> <p>研究対象者に対して、利用目的を含む本研究についての情報を静岡県立総合病院・静岡県国民健康保険団体連合会・静岡県のホームページ上に公開します。</p>
研究課題名	静岡県市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者のデータベースによる医学的エビデンスの創出のための解析研究 -レセプトデータを用いた2型糖尿病患者における心不全入院の発生率および医療費・医療資源に関する後向きコホート研究-
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	リサーチサポートセンター 主任研究員 (慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室) 宮田 裕章
研究期間	2019年7月17日から2023年3月
対象者	2012年度以降に静岡県内で市町国民健康保険加入者あるいは後期高齢者保険加入者として健診を受検された方
当該研究の意義・目的	<p>日本において高齢化に伴い糖尿病人口は年々増加傾向にあり、厚生労働省が2016年に行った調査では、1000万人と推定されています。また、糖尿病は循環器疾患や慢性腎不全といった疾患のリスク因子であることが報告されています。心不全は入院や死亡のリスクを高め、心筋梗塞や脳卒中との併発率も高く、一度発症すると元通り正常にならない可能性が極めて高い病気です。その多くは、悪化や改善で入退院が繰り返されるため、臨床的な観点からも医療財政の観点からも重要です。日本国内の糖尿病患者さんの心不全による入院やその医療費に関する研究は数が限られており、特に外来受診や資源利用などを長期に追った研究はありません。今回の研究では、レセプトデータを用いて、2型糖尿病患者における心不全による入院や治療の実態について調べ、包括的な視点から病気の予後や医療資源利用の評価を行います。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	静岡県国民健康保険団体連合会からハードディスクに保存して提供された2012年度以降の静岡県市町国民健康保険加入者および後期高齢者保険加入者の匿名化された健診結果、医療レセプトデータ、介護保険審査データの突合データを用いて、当院リサーチサポートセンター及び東京大学、慶應義塾大学において解析を行います。な

	お、データは研究対象者個人を直接特定できる情報を取り除いた状態で研究に利用されます。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
間合せ先	◆その他、この研究に関するお問合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立総合病院 リサーチサポートセンター 代表 054-247-6111